
少年少女発明クラブ

〈 畑 中 公 民 館 〉

○開 設 の 趣 旨 昭和63年に公益社団法人発明協会の承認を得て発足した新座市少年少女発明クラブの会員による年間を通じての活動で、内容は科学的な興味と関心を探求できる工作活動を主に毎月1回、テーマを決めて実施した。

○期 間 令和3年4月3日～令和4年3月5日 各土曜日（計14回）
（計29時間）

○対 象 ・ 定 員 市内在住の小学生・12人

○参 加 者 11人 参加延べ人数127人

○講 師 発明クラブ指導員 横山 仁 外8人

○事 業 内 容

回	月 日	時 間	内 容
1	4月 3日(土)	午前10時～正午	開講式・オリエンテーション
2	5月 8日(土)	午前10時～正午	紙工作
3	6月12日(土)	午前10時～正午	木工作Ⅰ（基本工作の基礎）
4	6月19日(土)	午前10時～正午	木工作Ⅱ
5	7月10日(土)	午前10時～正午	ペットボトル風車工作
6	7月17日(土)	午前10時～正午	ペットボトルロケット工作
		午後 2時～4時	ペットボトルロケット実射
7	8月 7日(土)	午前10時～正午	モーターを使った工作
8	10月 9日(土)	午前10時～正午	ストローヘリコプター作り
9	11月13日(土)	午前10時～正午	プラスチック工作
10	11月27日(土)	午前10時～正午	創作やきもの
11	12月11日(土)	午前10時～正午	クリスマスケーキ作り
12	1月 8日(土)	午前10時～正午	電子工作
13	2月19日(土)	午前10時～正午	パソコン講座アルゴリズム入門
14	3月 5日(土)	午前10時～11時	閉講式

○ま と め

4月の開講から3月の閉講式まで全14回にわたり、毎月1回のペースで毎回異なるテーマで講座を実施した。カッターを使った紙工作に始まり、のこぎり、かなづち、ドリル等を使った木工作、ペットボトルを使った風車及びロケット作り、ストローを使ったヘリコプター作り、またモーターを使った動く工作物の製作、LEDを使った電子工作を行った。様々な工作物の製作を通じてその難しさや原理原則を学ぶとともに、創造性の向上に資することができたのではないかと。

絵本とおはなしクラブ ～おはなし会と七夕のかざり作り～

〈 畑 中 公 民 館 〉

- 開 設 の 趣 旨 幼児や小学生を対象に季節に合わせた読み聞かせや紙芝居、手遊びを行い、読書の楽しさを伝える。
- 期 間 令和3年7月3日（土）
- 時 間 午前10時30分～11時30分 （計1時間）
- 対 象 ・ 定 員 市内在住の幼児から小学生と保護者・8人
- 参 加 者 9人（親子3組）
- 講 師 読み聞かせボランティアグループ絵本の会「四季」
- 事 業 内 容 絵本、紙芝居などの読み聞かせと、七夕の飾り作り。笹は持ち帰り。
- ま と め

雨の日が続き天気が心配だったが、当日は雨もやみ、定員の9人（親子3組）の参加があった。始めに大型紙芝居や絵本の読み聞かせがあり、その後館で用意した笹に、各々願い事を書いた短冊や様々な飾り付けをし、親子で楽しい時間を過ごせたようだ。飾りなどは、絵本の会「四季」の方々が事前に手作りをして用意してくださった。

コロナ禍で募集定員を少なく設定したため参加者は定員を満したが、やはり集客は難しい。



夏休み子ども講座

～クラフトバンドで小物入れを作ろう～

〈畑中公民館〉

- 開設の趣旨 夏休みの時間を利用して紙バンドの作品作りを体験する。
- 期間 令和3年7月24日（土）
- 時間 午前10時～正午（計2時間）
- 対象・定員 市内在住の小学1年生から6年生まで・20人
- 参加者 18人
- 参加費 250円（材料費）
- 講師 クラフトバンド認定講師 奥村 ひろ美
- 事業内容 紙バンドで小物入れを作る。
- まとめ

夏休み子ども講座として、クラフトバンドで小物入れを作る講座を企画した。4色の中から好きな色を選んで小さめの四角い籠を編み、そこに好きな飾りを付けてオリジナル小物入れを作った。今回は講師の提案で、小学1年生から参加可にしたため不安もあったが、アシスタントの方が3人来てくださり、丁寧に指導していただいたお陰で時間内に完成させることができた。

四角い籠の部分を編むときは、さすが高学年の子の方が早くきれいに進めていたが、後半の飾り付けのときは、意外に低学年の子の方が思い切りよく飾り付けをするなど、その違いが興味深かった。それぞれオリジナルの小物入れが出来上がり、楽しく参加してもらえたようだ。



子ども電気教室

～炭を使って電池を作ろう～

〈畑中公民館〉

- 開設の趣旨 電気の基礎知識と安全について、実験を通じて電気エネルギーの発生メカニズムなどを学ぶ。
- 期間 令和3年7月31日（土）
- 時間 午前10時～11時30分（計1時間30分）
- 対象・定員 市内在住の小学3年生から6年生まで・20人
- 参加者 17人
- 講師 一般財団法人関東電気保安協会埼玉事業本部 根内 秀一
- 事業内容 電気の安全と省エネルギーについての解説の後、炭（備長炭）電池を作り、電気エネルギーの発生メカニズムと電気の性質を知る。
- まとめ

身近にある電気の性質や発生のメカニズムについて興味と理解を持ってもらうため、昨年に引き続き一般財団法人関東電気保安協会に講師を依頼し、炭（備長炭）で電池を作ろうという講座を企画した。

備長炭に濃度20%の食塩水で濡らしたペーパータオルとアルミホイルの順に巻き、その上から銅線を（片方はアルミホイルの上から、もう片方は備長炭の上から）巻き付け、麦電球やプロペラモーターに銅線を接続させる。これで備長炭電池は完成で、すぐに電球がついた子と、なかなかつかない子がいたが、銅線の巻き方を直したり、さらに塩水に浸してみたりと工夫して、全員点灯させることができた。友達同士で連結させ、直列つなぎにしたらどうなるかやってみようという声が自然に沸き起こり、終始楽しそうに実験している様子が印象的であった。その他、実際の「ショート」の実験では、その音や火花に驚き、また電気製品の安全な使い方などを楽しく学べた講座であった。



サマースクール ～プログラミング体験ゲーム～

〈畑中公民館〉

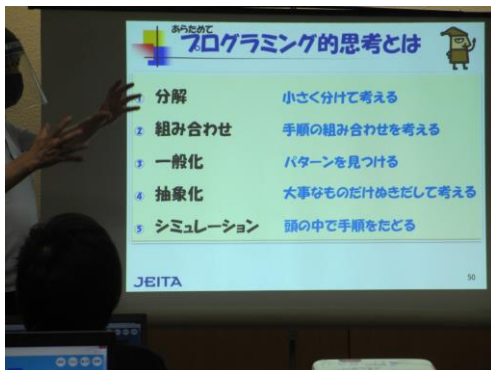
- 開設の趣旨 夏休みを利用してパソコンのプログラミングをゲームで学ぶ。
- 期 間 令和3年8月6日（金）
- 時 間 午前10時～正午（計2時間）
- 対象・定員 市内在住の小学4年生から6年生まで・12人
- 参加者 12人
- 講師 元一般社団法人電子情報技術産業協会 大山 裕
- 事業内容 パソコンを使ったプログラミング体験ゲーム「アルゴロジックⅠ・Ⅱ」に挑戦する。
- ま と め

夏休み講座の企画であるが、昨年度は12月に行い毎回定員になる人気の講座である。当日の準備で、全てのパソコンにインストールを行った後、講座を開始する手順となっていたが、2台分インストールできず開始時間が少し遅れてしまった。

始めに、コンピュータがどれだけ日常で使われているのかについて、講師から子どもたちに質問したが、緊張もあったのか誰も答えられなかった。講師から、携帯電話、エアコン、車、冷蔵庫等ほとんどの家電にコンピュータが入っているということを知り、私たちの生活にコンピュータは欠かせないものだということを知った。

また、プログラミングの基本となるアルゴリズムとは何か。意味は物事を行うときのやり方を工夫して効率よく行うことである。このやり方を取り入れたゲームが「アルゴロジック」である。内容は、効率的にゴールするためのブロック指定や並べ方を考えるゲームで、「アルゴロジックⅠ」は入門から上級で構成されており、小学生向けで問題を解けた子は多数いたが、今回はスクラッチゲーム等の経験者が二人しかいなかったこともあり、「アルゴロジックⅡ」の方は解くのは難しい様子だった。

この講座をきっかけに、またチャレンジしてもらえればと思う。



クラフトバンドでバッグ作り

〈 畑 中 公 民 館 〉

- 開 設 の 趣 旨 クラフトバンドで実用的なバッグを手作りして楽しむ。
- 期 間 令和3年6月23日・30日の水曜日 (計2回)
- 時 間 午前10時～正午 (計4時間)
- 対 象 ・ 定 員 市内在住又は在勤の方・20人
- 参 加 者 15人 参加延べ人数29人
- 参 加 費 1,100円(材料費)
- 保 育 希望なし
- 講 師 クラフトバンド認定講師 奥村 ひろ美
- 事 業 内 容 紙バンドのバッグ1個を2日間で作る。
- ま と め

人気講座であるが、今年度は応募が思ったより少なく、また久しぶりの保育付き講座であり準備をしていたが、保育希望者はいなかった。そのため、お願いしていた保育サポーターの方はキャンセルとなったが、そのまま講座に参加してくださることとなり、参加者は15人となった。

バッグの色は、参加者に4色の中から選んでもらい、事前に色ごとの人数を講師に知らせた。当日は参加者に材料をすぐ渡せるようセットして来てくれたお陰で、講座がスムーズに始められた。講師の他に二人のアシスタントの方が来られ、質問を受けながら指導に当たってくれた。1回目は皆同じようなペースで進んだが、2回目は自宅でできる所までやって来た方と、全くやって来なかった方がおり、アシスタントの一人が遅れている方に掛かりっきりになってしまうことがあり、次に進みたい方が質問待ちをしていることもあった。次回講座の改善点としたい。

アンケートでは、「時間が足りなかった」との意見もあったが、「かわいいバッグが出来上がってうれしい」「2日間楽しかった」「講師の先生の教え方が分かりやすかった」など楽しんでいただけたようだ。



大人の電子工作～オルゴールの製作～

〈 畑 中 公 民 館 〉

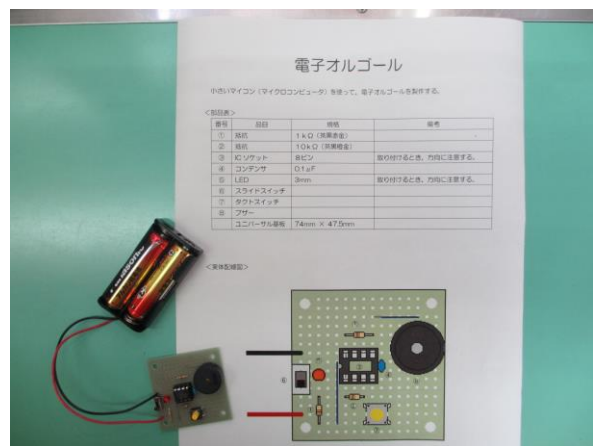
- 開設の趣旨 電子部品を使った工作を楽しむ。
- 期 間 令和3年9月18日(土)
- 時 間 午前10時～正午 (計2時間)
- 対象・定員 市内在住又は在勤の高校生以上の方・10人
- 参加者 6人
- 参加費 500円(材料費)
- 講師 埼玉県立越谷総合技術高校教諭 横田 一弘
- 事業内容 小さいマイクロコンピュータを使って、電子オルゴールを製作する。
- ま と め

今回で大人の電子工作は3回目の開催となった。

オルゴールの製作ということで女性の参加者が多かった。しかしながら、説明の段階でイメージしていた工程より難易度が高かったのか、受講生は戸惑っていた。また、はんだごてを初めて使う人や、4.5センチメートルの小さい基板にはんだ付けしていく細かい作業が難しい様子だった。位置がずれると場所によっては音が鳴らず、最後にスイッチを入れる段階で、ずれに気が付く人も半数くらいいた。講師の手直しが多いものの、全員が時間内にオルゴールを鳴らすことができた。オルゴールが鳴った瞬間は「オー」という歓声上がり、とても嬉しそうだった。

アンケートでは、「普段やらないはんだ付けがおもしろかった」「細かい作業だったが、先生に丁寧に教えてもらい楽しく工作ができた」など、よい感想をもらうことができた。

今回は、キャンセルも二人あり、少人数で丁度よい結果になったが、定員10人であれば時間を過ぎてしまったかも知れないので、次年度は定員の見直しを検討する。



蕎麦打ち講座 ～新蕎麦を打とう～

〈 畑 中 公 民 館 〉

○開 設 の 趣 旨 ^{そば}蕎麦打ちの体験を通し、地域住民の交流と畑中公民館サークルの育成を図る。

○期 間 令和3年10月23日(土)

○時 間 午後1時～3時30分 (計2.5時間)

○対 象 ・ 定 員 市内在住又は在勤の方・10人

○参 加 者 10人

○参 加 費 1,000円 実習材料費

○講 師 新座手打ち蕎麦同趣会

○事 業 内 容 講師陣によるデモンストレーションの後に実習を行い、試食する。

○ま と め

今年度で2年ぶり13回目の開催で、大変人気のある講座である。

講師は当館のサークル「新座手打ち蕎麦同趣会」に依頼し、受講人数を定員15人から10人に減らして開催した。

講座は、講師のデモンストレーションの後、各テーブルに分かれ、受講生二人に講師一人が付き、作業を進めていった。蕎麦打ちの専門用語を確認しながら、慎重な動きの方、大胆に進めて行く方など、それぞれに楽しみながらも、真剣な表情が印象的であった。蕎麦は三たて（挽きたて、打ちたて、茹でたて）ということで、新型コロナウイルス感染症の感染対策を施しながら、自分の打った新蕎麦を試食。新蕎麦の味と香りを楽しんだ。

講座後のアンケートでも、「大変おいしかった」「親切な指導でとても分かりやすかった」「自己流でやっていたが、細かい部分やコツが分かってよかった」などと、大変好評であった。



「日本事物誌」を読む

～イギリス人の目から見た明治日本～

〈畑中公民館〉

- 開設の趣旨 明治23年に発行された日本に関する小事典を学ぶ。
- 期間 令和3年11月9日・16日・30日、12月7日
日の火曜日 (計4回)
- 時間 午前10時～正午 (計8時間)
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・30人
- 参加者 27人 参加延べ人数88人
- 講師 学習院大学講師 林 東洋
- 事業内容



回	月日	内容
1	11月 9日 (火)	明治時代に東京帝国大学で教鞭を執った「お雇い外国人」であるB. Hチェンバレンの目を通して当時の日本の姿を4回にわたり深く読み込み、文脈の解説と解釈、その考察を行う。
2	11月16日 (火)	
3	11月30日 (火)	
4	12月 7日 (火)	

○ま と め

この講座は、受講者アンケートで一番希望者が多かった「日本事物誌」に決定したもので、昨年度に引き続き実施したものです。「日本事物誌」は、幕末から明治初期にかけて日本という国の様子がバジル・ホール・チェンバレンによって、事細かにつづられたもので、「算盤 (Abacus)」から「動物学 (Zoology)」までをアルファベット順に配列し、言葉巧みに事物百般を説く小事典となっている。

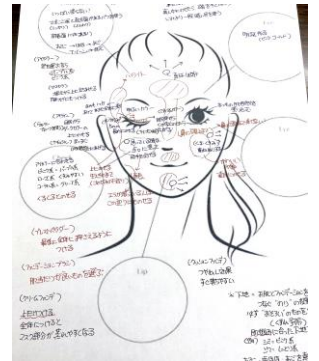
今回の講座は、昨年度に読んだ項目「日本」、「鎧兜」、「お歯黒」、「葬式」、「紋章」、「切腹」、「礼儀」などの復習に始まり、明治維新によって変革した社会階級「帝」、「貴族」、「將軍」、「大名」、「武士道」などの解説があった。

チェンバレンは、日本の歴史、古典の研究を始め、日本の文化や風習、社会・家族構造、国民性の観察などにより、日本及び日本語に関する正確な知識と認識を持ち合わせた人物である。「日本事物誌」は、イギリス人であるチェンバレンの主観的理解を通して翻訳したもので、私たち日本人には気付くことのない視点で紹介しているもので、日本を始め世界的にも魅力的な読み物となっている。

スキンケア・メイクアップ講座 ～自分を労る、優しいお肌づくり～

〈畑中公民館〉

- 開設の趣旨 マスク必須の今役に立つ肌の手入れ方法やメイク術を学ぶ。
- 期間 令和3年11月19日・26日（金）
- 時間 午前10時～正午（計4時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・12人
- 参加者 7人 参加延べ人数13人
- 保育 1人
- 講師 ポーラザビューティアー
野村 温子・中嶋 美紀子



○事業内容

回	月日	内容
1	11月19日	乾燥対策、口元リフトアップ、デコルテラインのマッサージ、ハンドケア
2	11月26日	マスクに付きにくいメイク、アイメイク、眉の整え方

○まとめ

コロナ禍でもあり、講師が直接参加者の肌に触れることはできないので、マスクの上からのセルフマッサージや、イラストを使ってのメイクレッスンとなった。講座開始前は不安もあったが、講師のお二人がとても明るく、替え歌を作って歌いながら顔のマッサージ方法を教えてくれるなど、制限のある中で楽しい工夫をしてくれた。今回、参加者は少なかったが、幅広い年齢の方々の参加があった。7か月の赤ちゃんを連れて参加してくれた方、とても熱心にメモを取る方など、誰もが気軽に質問できる雰囲気であった。1回目に参加してから丁寧な洗顔を続けたところ、家族から肌が綺麗になったと褒められた方や、今までに使ったことがないアイシャドーに挑戦して、新しい自分に気付いた方など、2回目の講座では参加者の表情が目に見えるほど生き生きと変わっていた。「肌のお手入れが基礎からしっかり学べた」「面倒がらずに、自分を労ってあげたいという気持ちになった」などメイクの力が実感できる感想が多く寄せられた。



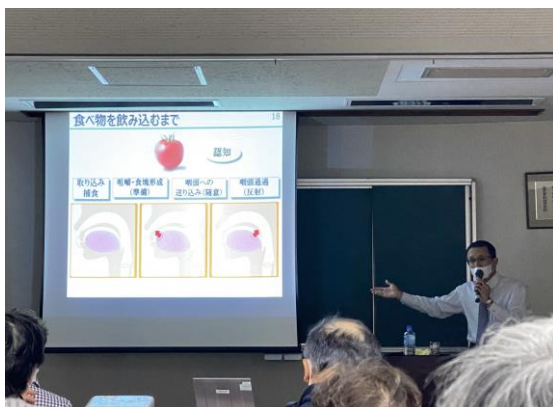
シニア世代の食事と栄養講座 ～楽しく食べて健康に～

〈 畑 中 公 民 館 〉

- 開 設 の 趣 旨 シニア世代の健康のために必要な食事と栄養について学ぶ。
- 期 令和3年11月24日（水）
- 時 午前10時～正午（計2時間）
- 対 象 ・ 定 員 市内在住又は在勤の方・30人
- 参 加 者 25人
- 講 師 キューピー（株）選任講師 前田 淳
- 事 業 内 容 シニアに必要な栄養や、咀嚼と嚥下^{そしゃく えんげ}について、講義や映像を見て理解を深めた。
- ま と め

キューピー（株）が社会貢献で行っている講座を開催し、シニア世代に必要な栄養について学んだ。シニアにとって粗食がよいと思っている方、自分は三食食べているから大丈夫と思っている方が多い中、実は「70歳以上の4人に1人は栄養失調」と言われているようで、これは意外な数字であった。健康寿命を延ばすためにも、シニアこそ「脂質」と「たんぱく質」をとることが大変重要とのこと。毎日の食事を見直すため、「10食品チェックシート」を使い、その日食べた食品をチェックしてみることに。さらに身体への吸収のため、「咀嚼」と「嚥下力」を高めることも重要で、口の周りの筋肉や舌の動きを鍛える体操（ぱたから体操）も紹介された。講師の話も大変分かりやすく、「食事」とは「人を良くする事」の意味があり、毎日の食事を見直して楽しく健康に過ごしてほしいという意図がよく伝わってきた。

講座後、10日ほど経った後回収したアンケートでも、「チェックシートを使ってみて、足りない食品が分かった」「食事のバランスを見直すきっかけとなった」「ぱたから体操を続けていきたい」など、大変好評であった。



おせち料理講座

～発酵食品でおいしく免疫力アップ！ヘルシーおせち料理～

〈畑中公民館〉

- 開設の趣旨 素材の味をいかし、家族で楽しめる伝統料理を作る。
- 期間 令和3年12月17日（金）
- 時間 午前10時～午後1時（計3時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・12人
- 参加者 12人
- 保育 1人
- 参加費 調理材料費1,500円
- 講師 管理栄養士・食生活アドバイザー 鳴嶋 廣美
- 事業内容 メニュー ・松風焼き ・伊達巻 ・ゆずなます
・簡単きんとん ・お雑煮
- まとめ

伝統の行事食の講座として、今年はおせち料理の講座を企画した。

講師は、今年度で4年目の開催となる大変人気のある講師である。

伝統のおせち料理を、簡単にヘルシーにというコンセプトで、調味料にこだわり、砂糖を使わず、講師自家製の「塩^{こうじ}麴」「甘麴」「醤油麴」を使って調理を行なった。水分の多い調味料を使うため、砂糖で仕上げた場合より柔らかめの触感となるが、素材の味を生かした優しい甘さが感じられた。

時節柄、手指のチェックや消毒、調理時のゴム手袋着用などをお願いしたが、参加者からは、「コロナ禍で料理講座の開催が難しいとは思うが、今後も続けてほしい」「楽しい料理講座を受講できてよかった」という声も聞かれ、「麴を使った料理が大変参考になった」「家でも是非作ってみたい」と大変好評であった。



歴史講座

～渋沢栄一と日本近代の夜明け（幕末から明治へ）～

〈畑中公民館〉

- 開設の趣旨 日本歴史や文化を学び、理解を深める。
- 期間 令和4年1月22日～2月12日までの毎週土曜日（計4回）
- 時間 午前10時～正午（計8時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・30人
- 参加者 29人 参加延べ人数110人
- 講師 国文学研究者 棚木 恵子
- 事業内容



回	月日	内容
1	1月22日（土）	農民渋沢栄一 志士となる
2	1月29日（土）	慶喜と勝海舟 生涯の主、師
3	2月5日（土）	江戸城無血開城
4	2月12日（土）	公益の追求 経済人として生きる

○まとめ

今年度で3回目の開催となる人気の講座である。武蔵野国の農民であった渋沢栄一が、一橋慶喜に仕官し、将軍徳川慶喜の幕臣となり、パリ万博博覧会の視察により、西洋の資本制度を取り入れ、「日本経済の父」と称えられるほどの功績を残す人物となった歴史について学んだ。

講師から渋沢栄一の生涯を通して、幕末から明治にかけ激動の時代を生き抜いた人々の暮らし、生活様式、思想・価値観、はやり歌・俳句など、歴史の裏舞台の話や、様々な視点から歴史の背景について、詳しく解説していただいた。

また、将軍徳川慶喜の決意、勤王の精神なくして、江戸城無血開城はなく、勝海舟などの活躍なくば、江戸は戦火にまみれ、国の発展（日本近代の夜明け）が遅れたということである。

アンケートでは、とても楽しく、おもしろい、今まで知らなかったことをたくさん学ばせていただいた、「幕末から明治へ」の歴史の流れがよく分かったとの感想が目立った。



美術講座 MOMA Sから見る美術の世界

〈畑中公民館〉

- 開設の趣旨 近代美術を中心に歴史を交え、絵画を楽しむコツを紹介する。
- 期間 令和4年2月25日（金）
- 時間 午前10時～正午（計2時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・30人
- 参加者 15人
- 講師 埼玉県立近代美術館 佐藤 あゆか
- 事業内容 埼玉県立近代美術館開館40周年記念コレクション展を中心に黒川紀章が設計を手がけた館の建築やユニークな屋外彫刻、埼玉県ゆかりの画家について解説を受ける。

○ま と め

埼玉県立近代美術館は、1982年に開館した、黒川紀章が設計を手がけた初めての美術館で、北浦和公園に隣接しており、波状の曲面ガラスを用いたことから、明るく、奥行きがあり、公園と共生する開放感あふれる建物となっている。また、建物の内外を区分するような鳥かご状のエントランスになっているとの説明があった。

埼玉県にゆかりのある優れた画家の作品を核に、埼玉の美術界に影響を与えた印象派のモネ、シャガール、ピサロなどの作品を展示しているとのことで、講師がプロジェクターで埼玉ゆかりの作品と自然をテーマにしたピサロなどの作品を見比べながら、細かな色使いや光の表現などについて、印象派からの影響も含め、分かりやすく解説していただいた。

アンケートでは、MOMA Sの特色や作品がよく分かった、内容が整理され、説明が詳しく、分かりやすかった、来年度もMOMA S講座を実施してほしい、美術館に行きたくなったなどの感想があった。



手作り味噌講座 ～有機大豆を使って、寒仕込みの味噌作り～

〈畑中公民館〉

- 開設の趣旨 日本^{みそ}の伝統食品である味噌を作る工程を体験する。
- 期間 令和4年2月26日（土）
- 時間 午前10時～午後1時（計3時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・12人
- 参加者 12人
- 参加費 調理材料費1,500円
- 講師 味噌作り会 代表 山村 七海子
- 事業内容 有機大豆と国産材料を使って手作り味噌を仕込み、2キログラムを持ち帰る。

○ま と め

講師は市内公民館サークルである「味噌作り会」に依頼した。同サークルは、市内の小・中学校の栄養士や給食調理師の方たちで構成され、長年にわたり味噌作りの活動をしている。その長い活動の中で試行錯誤を重ねながら作り上げたレシピを紹介していただいた。

講座は、圧力鍋での大豆の炊き上がり時間に注意しながら、代表の方を中心に各テーブルにサークルの方が付き、適切にアドバイスをしてくれた。

公民館にはない調理器具（圧力鍋やブレンダーなど）もサークルの皆さんで用意していただき、スムーズに作業することができた。この道具がなければ、一人2キログラムの味噌作りは難しかった。

申込受付時には、大変好評で開始後10分で定員となってしまったが、その後も多数の申込みがあった。次回開催のときは募集方法を考えたい。

参加者からは、「講師の皆さんが親切で分かりやすかった」「9月お彼岸の出来上がりが楽しみ」「毎年開催してほしい」という声が多数寄せられた。



親子料理教室

～お家で作りたくなる簡単美味しいピザ～

〈畑中公民館〉

- 開設の趣旨 親子で調理を体験し、手作りの楽しさ、良さを学ぶ。
- 期 間 令和3年6月26日(土)
- 時 間 午前10時～正午(計2時間)
- 対象・定員 市内在住の小学生の親子・8組16人
- 参加者 6組13人
- 参加費 1組1,200円(材料費)
- 講師 かんたんおやつインストラクター 水相 麻由美
- 事業内容 生地が発酵なしで作る簡単ピザと、フォンダンショコラを作る。
- まとめ

「親子で作れる簡単ピザ」ということで、ピザの生地はビニール袋に材料を全部入れ、「揉む」→「押す」を繰り返して混ぜるだけという簡単な方法が紹介された。子どもたちは喜んで作業しており、保護者も台所が汚れない方法だと好評であった。デザートのフォンダンショコラは、板チョコを湯煎で溶かしたり、米粉を使った生地をハンドミキサーで混ぜたり、ピザよりは気を使う作業があったが、どの親子も楽しんで作業している様子だった。オーブンはピザを焼いたりデザートを焼いたりフル回転だったが、美味しそうな匂いが部屋中に漂い、焼き上がりに歓声が上がった。

会食はできないので全て持ち帰りとなるが、「親子で楽しかった」「生地をうまく混ぜることができた」「自宅でも作りたい」と楽しんでもらったようだ。



人権学習

〈畑中公民館〉

- 開設の趣旨 日常生活における差別や偏見について考え、意識を持っていくことを目的とする。
- 期 間 令和3年11月27日(土)
- 時 間 午前10時30分～11時(計0.5時間)
- 対象・定員 公民館サークルの代表・50人
- 参加者 30人
- 事業内容 利用者懇談会の中で、ビデオ視聴により人権問題について学ぶ。
- ま と め

毎年、利用者懇談会の会議終了後に人権問題に関するDVDを視聴していたが、今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策として長時間の会議を避けるため、代替事業として人権啓発冊子「人権ア・ラ・カルト」を配布した。

シニア向けタブレット入門講座

〈 畑 中 公 民 館 〉

- 開 設 の 趣 旨 高齢者を対象にタブレットの基本的な操作を学ぶ。
- 期 間 令和3年10月5日（火）
- 時 間 午前10時～正午（計2時間）
- 対 象 ・ 定 員 市内在住又は在勤の60歳以上の方・15人
- 参 加 者 9人
- 講 師 KDDI ケータイ教室認定講師
- 事 業 内 容 タブレットの基礎知識や基本操作、災害対策サービスの紹介、アプリの利用方法、音声入力やカメラ機能を使った撮影などを学ぶ。

○ま と め

始めは、電源を入れるところから入り、地図検索、ゲームを通してフリック、タップなどの基本操作を学んだ。指のどの部分で操作するのか、どれくらいの強さで押すのかなど、細かいところまで説明してくれた。

次に、情報を得るため、音声での検索方法を習った。本市のホームページで市の最新情報やラジオアプリで災害情報を知ることの重要性について説明を受けた。

後半は、カメラの操作で自撮り、連写のやり方を習い受講生は楽しそうに撮影をしていた。最後に、YouTube 検索で自分の好きな音楽を聴き、タブレットでの様々な活用方法について学ぶことができた。

今回の講座は、緊急事態宣言下での参加申込みのため、少人数での開催となったが、次回は多くの方に参加してもらいたいと思う。



歴史街歩き ～飛鳥山・王子をめぐる～

〈畑中公民館〉

- 開設の趣旨 高齢者を対象として、事前講義の実施後に、館外で史跡等の解説を受けながら見学する。
- 期間 令和3年12月7日(火)・15日(水)
- 時間 第1回午後1時～2時30分
第2回午後1時～4時(計4.5時間)
- 対象・定員 市内在住又は在勤の60歳以上の方・15人
- 参加者 14人 参加延べ人数27人
- 参加費 800円(入館料)
- 講師 学習院大学講師 林 東洋
- 事業内容 渋沢栄一ゆかりの飛鳥山、王子周辺を巡る館外学習
- まとめ

これまでは市の委託バスで現地まで行き散策していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で今回はバスが使えないため、現地集合・解散とした。

当日は、誰も遅れることなくタイムスケジュールどおり回ることができた。講師の解説も分かりやすく、受講生は熱心に話を聞いていた。また、王子周辺は急な坂も多かったが、最後まで散策を楽しんでいた。

今回の館外学習も大変応募が多かったため抽選とした。44人の応募があったが、6人のキャンセルがあり、ある程度のキャンセル待ちを確保する必要がある。

また、同じ講師が担当する歴史講座と混同する応募者もいたため、講座の違いを明確に説明する必要もあった。

